

907. ふるべにうす多元環ニツイテ補足(一)

[右右, いでやる束が逆同型ノ環ニツイテ]

中山 正(阪大)

主定理ノ逆ヲ少し違フ観点カラ見ル. 結果ハソレト互ニ相補ツテ孰レモ他ヲ含マヌ.

Aヲアル体Fノ上ノ多元環トスル. Aガノ有シ且ツソノ左及ビ右ノ正規表現 $L(a), R(a), (a \in A)$ ガ互ニ同値デアアル時Aヲふるべにうす環(F環ト略)トヨブ. 少し弱ク, ノ有シ且ツ $L(a)$ ト $R(a)$ ノ中ノ直既約成分ガ重複度ヲ除ケバ一致スル場合ニハAヲ準F環トヨブ. Ann. Math. 40ノ論文(以下 Part I ト略)デノ最も主ノ結果ハ次ノコトデアッタ: Aガ準F環デアレバ, 相殺関係ガ左右いでやるノ間ノ一対一 対応ヲ與ヘル. 即チ, 今Aノ部分集合 $S =$ 左カラ乗ジテ $0 =$ ナル元ノ集合ヲ $\ell(S)$, 右カラ $0 =$ スルノヲ $r(S)$ トカケバ

$$\alpha) \ell(r(\ell)) = \ell, \quad r(\ell(r)) = r$$

ガスベテノ左いでやる ℓ , 右いでやるニ成立ツ. 逆ニ上ノ関係ガスベテノ巾零單純左又ハ右いでやる及ビ根基 N , 零いでやるニ對シテ成立ツ+ラバAハ準F型デアル. 更ニAガ眞ニF型+ラバ $\alpha)$ ヨリ強ク

$$\beta) (\ell:F) + (r(\ell):F) = (A:F) \\ = (r:F) + (\ell(r):F)$$

ガ成立ツ. 逆ニ $\alpha), \beta)$ ガ上ニ述ベタ如キいでやるニツキ成

立ッテラ A は F 環デアール。

コノ逆ノ方ハ弱メテ、スベテノいでやる = ツキ $\alpha)$ が、
又 $\beta)$ が成立ッテ假定スレバ勿論成立ッ。然ラバ、今
度ハ上ノ如ク相殺関係デト規定セズ、單ニ左右いでやるノ間
ニ一對一對應ガアリ \supseteq が \subseteq = ナルトシタ場合ハ如何？ 答
ハ肯定的、即チ

定理 A ノ 左いでやるノ + ス 束ト 右いでやるノ + ス
束トガ互ニ逆同型ナラバ A ハ 準 F 環デアール。更ニソノ逆同
型デ對應スル 左右いでやるノ (F = 対スル) 階數ノ和ガ A
ノ階數ニ一致スル (即チ階數ガ *dual*) ナラバ A ハ F 環デア
ール。

上ニ述ベタ定理ノ前半ト組合セテ

定理 A ノ 左右いでやる束ノ間ニトモカク 逆同型ナル
逆同型ガアレバ、實際相殺関係デモ逆同型ガ生ズル。更
ニ對應スル 左右いでやるノ階數ガ *dual* ナル如キ逆同型
ガアルナラバ、相殺関係モマタソノ如ク逆同型ヲ與ヘ
ル。

トモカク以上デ 左右いでやる束ガ逆同型ナル如キ多元
環ガスツカリ特徴ツケラレタワケデアール。ナホ、コレラノコ
トハ實ハ多元環ニカギラズ、最小條件ヲミタス環ニツイテ(ソ
ノ場合ノ F 環、準 F 環、及ビ階數ノ代用品ニツイテハ近刊
ノ Part II (Ann. Math.)ヲ参照サレタイ)モ同様ニ
成立ッ。

以上ノ定理ノ証明ハ、ハジメニ述ベタ定理ノ逆ノ部分ヨ

リムシロ簡單デアアル。(両方ノ結果ハドレモ他ヲ覆ツラハキ
 ナイ)。而シテ事實次ノヨリ強イ定理ガ成立ツ。

定理 A ノ完全可約左いでやるノナス束ガ A ノ根基 N
 ヲフクム右いでやるノナス束ト逆同型デアリ、マタソノ左右
 トリカヘタコトガ成立ツナラバ A ハ準 F 環デアル。更ニソレ
 ラノ逆同型ニ於テ對應スル左右いでやるガ *dual* + 階數ヲモ
 ツナラバ A ハ F 環デアル。

(N ヲフクム右いでやるトハ即チ最大右いでやるノ截
 分ニナルモノデアルカラ *abehn* = 完全可約ト云フベキデア
 ラウ)

証明 λ タメニ寸複習。 A ヲ任意ノ多元環、 N ヲソ
 ノ根基トシ、 $e_{k,i}$ ($k=1, 2, \dots, k; i=1, 2, \dots, f(k)$)
 ヲ互ニ直交スル原始中等元ノ系ヲ最大ノモノトスル。タゞ
 シ添字ハ $Ae_{k,i}$ ト $Ae_{\lambda,j}$ ナル左いでやるハ k ト λ ガ同ジ
 トキ且ツソノトキニ限ツテ作用同型ナル如クトツテアルトス
 ル。然ラバ右いでやるニツイテモ同ジコトガ成立ツ。更ニ
 マタ N デノ剩餘系ニウツテ $\bar{A}e_{k,i}$ 、 $\bar{A}e_{\lambda,j}$ ナル單純
 加群ニツイテモ同ジデアアル。Part I ヲ次ノ補題ヲ証明
 シタ。(實ハコレガ表現論カラ構造論ヘウツル糸デアアル)

補題 A ハ 1 ヲ有スルトスル。 A ガ準 F ナルタメニ
 ハ次ノ如キ $(1, 2, \dots, k)$ ノ置換 $(\pi(1), \pi(2), \dots,$
 $\dots, \pi(k))$ ノ存在ガ必要且ツ充分:

- i) $e_{k,1}$ A ハ唯一ノ單純部分右いでやる $e_{k,1}$ ヲ有シ、
 且ツソレハ $\bar{e}_{\pi(k),1} \bar{A}$ = 同型

ii) $Ae_{\pi(k),i}$ は唯一の単純部分左イデアル $l_{\pi(k),i}$ を有し、且つソレが $\bar{A}e_{k,i} =$ 同型。

更 = F環デアレタメ (= 8 i), ii) / 外 = 更 =

iii) $f(k) = f(\pi(k))$

ヲミタスコトが必要且つ充分デアル。

次 =、次ノ補題ハ Part II デ証明シタガヘテ順序ガ転倒シタ点ガアルカラ繰返ス。

補題 上ノ定義デ ii) ノ最後ノ条件ハ除イテモヨイ。

即チソレハ i) 及ビ、ii) ノ前半カラ出ル。

証明: $l(N), r(N)$ ハ勿論共ニ両側イデアルデア
ル $l(N) = \sum e_{k,i} l(N)$ デアリ、コト = $e_{k,i} l(N)$
 $= e_{k,i} A \cap l(N)$ ハ $e_{k,i} A$ ノ最大完全可約部分右イ
デアルデアル。 ($l(N)$ ハ A ノ最大完全可約右イデアル
デアル)。故ニソレハ假定 i) カラ単純デ且つ $\bar{e}_{\pi(k),i}$ \bar{A} ト
同型、故ニ $e_{k,i} l(N) = e_{k,i} l(N) E_{\pi(k)}$ (タビシ
 $E_{\pi(k)} = \sum_i e_{\pi(k),i}$) デアルガ $\lambda \neq \pi(k)$ ナル E_λ
ヲカケレバ $0 =$ ナル。ヨツテ $E_k l(N) E_\lambda$ ハ $\lambda = \pi(k)$
ノトキ $E_k l(N)$ デアリ、ソウデナケレバ 0 。故ニ今度ハ
 k ノオウゴカシテ

$$\begin{aligned} l(N) E_{\pi(k)} &= \sum_\mu E_\mu l(N) E_{\pi(k)} \\ &= E_k l(N) E_{\pi(k)} = E_k l(N) \end{aligned}$$

トナル。スナハチコノ等式ノ両辺ハ両側イデアルデアル。

更ニコレガ単純ナルコトヲイフ。ソノタメ d ヲソノ任意ノ
元 ($\neq 0$) トスル。 $d = \sum_i e_{k,i} d$ デルケレバ

$e_{k,i} d$ が $\neq 0$.

例へばソレヲ $e_{k,p} d$ トスル. シカラバ $e_{k,p} d A = e_{k,p} l(N)$ デアル. ナゼナラ右辺ハ單純右いでやるデカラ. ヨツテ $A d A = A e_{k,p} l(N) \supseteq E_k l(N)$ (ナゼナラ $e_{k,q} = C_{k,qp} e_{k,p} + l C_{k,qp}$. (行列單位ノ系) ガアルカラ). 即チコレハ我々ノ $E_k l(N)$ ナル両側いでやるガ單純ナコトデアル. ヨツテ特ニソレハ左いでやるとシテモ完全可約デアル. (ナゼナラ, ソノ最大完全可約部分左いでやるハ両側いでやるとルコトガ容易ニ分ルカラ) ソレハ $E_k l(N)$ ガ $\gamma(N)$ = 含マレル事デアル. k = 任意デカラ $l(N) \subseteq \gamma(N)$.

ii) ノ前半 = ヨル $l_{\pi(k),1}$ ハ 唯一ノ 單純部分左いでやるデカラ最大完全可約部分左いでやる $\gamma(N) e_{\pi(k),1}$ ト一致スル. 故ニ $e_{k,1} l_{\pi(k),1} = l_{k,1} \gamma(N) e_{\pi(k),1}$ デアリ, コレハ上記 = ヨリ $\supseteq e_{k,1} l(N) e_{\pi(k),1}$. コレハ $= e_{k,1} e_{\pi(k),1} \neq 0$. (條件 i) 故ニ $l_{\pi(k),1} \cong \bar{A} e_{k,1}$ デナケレバナラヌ. 即チ ii) ノ後半が出タ.

ナラ, 定理ノ証明ハ容易: 完全可約左いでやるノナラ Λ , 根基 N ノ Γ ヲム (即チ $oben$ = 完全可約ナ) 右いでやるノ Λ ノ P トスル. 仮定 = ヨリソノ Γ = 逆同型ガアル. コレ等ノ Λ ハ modular 且ツ Complemented デアルガ, ソノ中ノ独立ノ原子ノ數ヲカゾヘル. $P =$ オイテハソレハ $\bar{A} = A/N$ ノ独立ノ右いでやるノ數. 即チ $\sum f(k)$ デアル. $\Lambda =$ ツイテシラベルタメ A ノ 直和

$$A = Ae_{1,1} + Ae_{1,2} + \dots + Ae_{k_i, f(k_i)} + l_0$$

ト分解スル (コト = l_0 の根茎 = フクマレタアル左いでやる
 デアル). $\sum f(k_i)$ 個各左いでやる $Ae_{k_i, i}$ が 少クモ一ツ
 ノ單純左いでやる, 即チ \wedge ノ原子ヲ有シ, ソレ等ハ獨立デ
 アル. ヨツテ $\wedge =$ オケル数ト一致スルノダカラソレハ丁度
 一ツ, 即チ唯一ツデアリ, シカモ l_0 ハ消ヘテシマハネバ
 ナライ. 即チ ii) ノ前半ハステ = 云ヘタ.

ソノ唯一ツノヲ $l_{k_i, i}$ デアラハス. シカラバ同ジ $k_i =$
 属スルソレラが同型ノコトハ明カダガ, 硬 = 違フ $k_i =$ 對ス
 ル \in ノハ同型デナイコトライフ, ソレ = ハ \wedge 及ビ P ヲ
 (*irreducible*) + 「射影幾何」 = 分解スル数ヲカゾ
 ヘル.

ソレハ互 = 背景的デナイ原子ノ數デアル, シカル = ニ
 ツノ單純左いでやるノ共ハソレラが同型ノトキ, 且ツソノ時
 = カギリ第三ノソレヲ含ミ, 従ツテ配景的デアル, ヨツテ上
 記ノ數ハ \wedge デハ高ク l デアリ, P デハ丁度 l デアル, 故
 = \wedge デモ丁度デアリ, シタガツテ違フ $k_i =$ 對スル $l_{k_i, i}$ ハ
 同型デナイ.

全然同様ノコトが左右トリカヘテイヘル, 故 = 上ノ補題
 カラ A が準 F 環デアル, (單位元 1 ノ存在ハ $l_0 = 0$ 及ビソ
 レト同様ナ $0 = 0$ カラ)

次 = 更 = 對應スル左右左いでやるノ階數が dual ト
 スル.

\wedge ト P ノ逆同型ヲ $\sigma: l \rightarrow \pi = \sigma(l) \quad (l \in \wedge)$ デ

表ハサウ。

今 $\gamma(N)E_{\pi(k)}$ ヲ考ヘル。既ニ知ルゴトク、コレハ $\overline{A} \overline{e}_k \cong \gamma(N)E_{\pi(k),1}$ ト同型ト單純左いでやるスベテノ和デアアル。

即チ $\gamma(N)E_{\pi(k),1} = \ell_{\pi(k),1}$ ト配景的ト原子全部ノ和デアアル。故ニソレニ對應スル $\sigma(\gamma(N)E_{\pi(k)})$ ハトモカク A/σ ガ互ニ同型ナル如キ最大右いでやる σ ノトナル最大ノ系ノ截分デアアル。スナハチ適當ト入ヲトレバ $N \cup (1-E_\lambda)A$ トナル。シカレニ $\gamma(N)E_{\pi(k)}$ ハ上述ニヨリ $f(\pi(k))$ 個ノ独立ト原子ノ和デアアル。他方 $N \cup (1-E_\lambda)A$ ハ $f(\lambda)$ 個ノ *open*ニ独立ト最大元ノ截分デアアル。故ニ $f(\lambda) = f(\pi(k))$ トナル。

シカレニ假定ヨリ

$$\begin{aligned} f(k) \cdot f(\pi(k)) \cdot (\overline{c}_{k,1}, \overline{A} \overline{e}_{k,1} : F) &= (\gamma(N)E_{\pi(k)} : F) \\ &= (A/\sigma(\gamma(N)E_{\pi(k)}) : F) \\ &= (A/(N \cup (1-E_\lambda)A) : F) \\ &= f(\lambda)^2 \cdot (\overline{e}_{\lambda,1}, \overline{A} \overline{e}_{\lambda,1} : F) \end{aligned}$$

デアアル(第一ノ等号ガ假定)。故ニ併セレバ $f(k) = f(\pi(k))$ トナル。何故ナラ $\overline{e}_{k,1}, \overline{A} \overline{e}_{k,1}$ ト $\overline{e}_{\lambda,1}, \overline{A} \overline{e}_{\lambda,1}$ ハ同型。ナセナラ一方ノ歪体ノ射影幾何ニ逆同型ト射影幾何ノ係数歪体ニ逆同型ガカラデアアル。コレデiii)モ出来テ、 A ガF環デアアル。